

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では産業管理種に指定され、トカラ列島の宝島などで確認されています。在来木本との競合が確認されています。防風林などで植栽する場合は、他の樹種で代替できないかをあらかじめ検討するとともに、使用が避けられない場合は、分布の無秩序な拡大を招かないよう、管理の方法を検討しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	モクマオウ科	
種名(亜種名)	トクサバモクマオウ	
学名	<i>Casuarina equisetifolia</i>	
環境省カテゴリー	—	
県カテゴリー	産業管理種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	オーストラリア	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	トカラ列島(宝島)など	
全国の侵入分布	琉球列島、小笠原諸島	
生態学的特性		
生態	海岸の砂浜などでもよく生育する。 塩分に対して強い抵抗力を持っている。	
形態	高さ7～10mで最大20mになる常緑高木。 材は硬く折れやすい。若枝には灰白色の毛が密生し、のちに無毛になる。葉は線形で6～9枚が輪生する。枝に雌花、その上部または葉のような枝の先に雄花をつける。雄花は狭円筒形。雌花は球形、花柱は細く赤色。果実は淡褐色でへん平な楕円形、上半部は翼となる。	
繁殖形態	開花時期は4～6月。 雌雄同株。	
生息環境	荒地、沿岸部などに生育。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来木本と競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来木本と競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
トクサバモクマオウとの関わり方	防風林などで植栽する場合は、他の樹種で代替できないかをあらかじめ検討するとともに、使用が避けられない場合は、分布の無秩序な拡大を招かないよう、管理の方法を検討しましょう。
見分け方	トクサバモクマオウは、高さ7～10mで最大20mになる常緑高木で、材は硬く折れやすい。果実は淡褐色でへん平な楕円形で上半部は翼となる。 なお、本種に類似した在来植物はない。
見かけやすい場所・時間	荒地、沿岸部などに生育。
防除方法	伐採などによる防除。
防除の取組事例	東京都では、小笠原諸島での駆除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81500.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 外来木本植物対策 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_introducedspecies.html